

令和7年度 酒田保育園 自己評価結果

保育内容 (養護・健康・人間関係・環境・言葉・表現)	評価 す べ き 点	○一人一人の発達状況と、子どものおかれている事情（家庭環境）を保育リーダー会議（ケース会議）などで伝達し、その対応について検討している。その内容を各クラスの職員が把握することで適切な言葉がけや、援助、見守りを子どもにも保護者の方にも行なっている。 ○年齢や季節に応じた休息をとって生活リズムを整えている。また、朝食をしっかり食べてこれるような働きかけを行っている。 ・一人一人の話や思いに耳を傾け、互いに信頼関係を築いていく事を大切にしている。 ・おもいやり保育を通して、友だちとの関わりを深め、「手伝う」「はげます」「ありがとう」の思いやりの気持ちや行動を育んでいる。年長児が「お手伝い」をする姿をみることで、他のクラスの子どもたちにも「ありがとう」という気持ちが育まれている。 ・乳児保育では大切な命を守るのに小さな気付きが重要であることを意識しながら保育を行っている。 ・2歳児の夏まつりやうんどうかいごっこのお手伝いや寝かしつけなどに年長児が参加して交流することで、年長児は小さい子に対するかかわり方を学び、2歳児は期待を持って異年齢との体験が持てた。 ・季節に合わせた製作や飾りつけをすることで、季節を感じるようにしている。 ○おもいやり保育の活動の一つとして、こいのぼりや七夕飾り、秋の製作を4・5歳児、2・3歳児と2クラスずつの合同制作にしたり、乳児クラスには4・5歳児が制作したものをかざったりして、他のクラスにも関心が持てるようにした。また、町の文化祭には全園児の作品を展示し、地域の皆様との交流が持てた。 ○さまざまな野菜（さつま芋・夏野菜等）を栽培し、また年長児は米作りも体験して、収穫の喜びを味わい自然の恵みに感謝する機会を作っている。また、その食材を給食室へ子どもたちが届けたり、炊飯活動をして食べ物の大切さを学んでいる。 ・園児のおもいやり行動を見つけ、おもいやりメッセージとして園だよりに掲載することで、職員だけでなく保護者にもおもいやり保育を発信し理解してもらっている。個々のすこやかシートを継続して書くことで、どんなおもいやり行動があるのか職員間で改めて気付くことができる。 ・0・1歳児は24時間時系列の連絡帳を使用して、子どもの日々の生活を家庭と保育園が連続したサイクルでとらえ、一人一人の生活がリズムよく無理なく過ごせるように配慮している。 ・0・1歳児は担当制での保育を行うことで、子ども一人一人の発達状況を丁寧に捉えチーム内で理解しながら、愛着関係、信頼関係を大切にしている。 ・日本太鼓やリズムあそびを年間通して行い、リズム感や協調性を養っている。 ・保護者が参加する行事（運動会・生活発表会・クラス懇談会や保育参観等）一つ一つに対して、今年度の取り組み方や内容を検討し丁寧に取り組んだ。 ○毎月のクラスだよりを写真付きでコドモンでの配信にして、よりクラスの様子がわかるように工夫した。 ・『本』を大切に扱うという課題に対しては、本にシールを貼って色分けをすることで片付けが出来てきているので、継続して伝えていく。 ・乳児室にも子どもたちが自由に本に触れるスペースがあり、子どもが興味を持った時に、一緒に絵本を読んでもらえるようにしている。 ・自由あそびの時間では活動によっては空間を分ける配慮をすることで、興味を持ったあそびで集中して遊べるようになった。 【年長児の活動】 ・手話や英語などさまざまな体験を通して、福祉の心やグローバルなコミュニケーションに興味や関心を持たせている。 ・町の行事であるあじさい祭りに参加したり、幼年消防クラブの活動として出初式に参加し、地域との交流や貢献事業として関心が持てた。
課題点		○研究発表のテーマである『食育』の実践活動として『おにぎりの日』を年間3回設定し、親子でおにぎりづくりに取り組んでもらうことで、食への意識を高められるよう促すことが出来た。 ・思いやりクラスでの活動は戸外活動が中心ではあるが、朝夕の時間も合同で過ごすことで交流する機会が増えた。

	課題点	・ゆり組のお手伝いで他のクラスへ行く機会は増えたが、思いやりクラスで（４・５歳児）のお散歩や食事をする機会や、２歳児・３歳児に体操を教えたり一緒にやってみるなど、交流する機会を増やしていきたい。４歳児も他のクラスとのふれあいを増やしていく。 ・固定遊具での怪我の報告に対し雲梯での怪我が多いため、鉄棒や雲梯での遊び方について年齢ごとに正しい使い方を再度検討していく。２歳児用の雲梯は移動式のため、使用するときにはマットなどを敷き安全対策をしてから使用する。 ・保育参加の参加時期が年度末に集中してしまったので、誕生月の前月には声かけをして早めに参加してもらえるように促していく。
--	-----	---

健康および安全	評価すべき点	○保護者が参加する行事では、その時の感染症の状況に合わせた参加人数を検討し、感染症対策を行いながらも少しずつ緩和もしながら実施が出来た。 ○夏のプールや水あそびの取り組みでは、職員配置など検討しながら昨年度同様に足水あそびを取り入れたり、紫外線防止のテントをプールに配置したりして、熱中症防止と安全面での配慮を行った。また、『熱中症の予防・対策マニュアル』を作成し更に熱中症への注意を払った。 ・散歩など園外活動をする際は事前に保護者に知らせ、安全対策（職員数やお散歩マニュアル等）に留意して行っている。 ・就学前に５歳児を対象にした交通安全教室を、町と警察の協力のもと道路での実地訓練を行い、安全への意識を持たせた。 ・園バス利用時は、人数確認の仕方などマニュアルに沿って安全に実施した。 ・園外保育の際だけでなく、通常の戸外あそびの後など保育中でも必ず人数確認をすること、特に降園時の園庭での活動後は、出席表と照らし合わせながら個別確認をしている。 ○登降園の管理システムを使用し、登園人数・欠席理由などを周知して、安全管理に努めている。 ○登園時には、朝の体温を保護者に記入してもらい、健康状態を確認している。夏の時期は、朝食を食べてきているかおたよりちょうに記入してもらった。 ・新入園児に対しては、入園後１か月は体調管理を十分に行い、午睡時は個別にチェックしている。特に０・１歳児の睡眠時にはSIDS予防の睡眠チェックを細かに行ない、無呼吸アラームを活用している。 ・熱性けいれんをもつ園児に対しては個別に検温を行い、期毎に状況をまとめて職員に周知している。 ・家庭で内服して登園してくる園児を確認し、午睡チェック表にも記入し健康観察など体調管理に留意した。 ・感染症ボードを設置し、園内の感染状況を保護者に知らせている。感染状況によっては、アプリでの配信も行い、保護者への周知をしている。 ・感染症対応として、嘔吐・下痢対応に必要な備品のチェックを年度初めに行ない、各クラスの職員間で対応の仕方も確認している。 ・食物アレルギー児に対する情報や食事内容をノートに記入し、提供時はダブルチェックを行い、保護者、保育士、栄養士と共に連携し共有しながら除去食の提供を丁寧に行い、誤食のないよう取り組んでいる。 ○食物アレルギー児には、保護者同意の上で、緊急避難時にはアレルギー情報を記載したビブスの着用を行うようにしている。防災訓練でも着用することで職員間で共通認識できるようにしている。 ○引き渡しの間違えのないよう、全園児にお迎えの方をおたよりちょうに毎日記入してもらうよう徹底した。変更の際は、必ず連絡をお願いして、安全な引き渡しができるよう取り組んだ。 ・環境リーダーを中心に、保育室内外の環境点検と遊具点検を月２回実施し、安全意識を高め不備がある場合は速やかに改善している。 ・環境リーダー会議で報告されるヒヤリ・ハットを各クラスに持ち帰り、お互いに確認する中で職員間に気付きが生まれ、事故の未然防止に役立てる事ができている。担当職員だけではなく、園全体で危機管理をもつようにしている。 ○防災訓練を実施する中では、様々な状況を想定して（想定震度によってはベルを鳴らさないで方法で避難を促す）訓練し、保護者参加の引取り訓練も実施している。毎月の職員会議で、反省点を職員間で共有するようにしている。
---------	--------	--

健康 および 安全	評価 すべき 点	・消防署によるAEDの研修を実施し、危機管理と安全対策に努めた。 ○水害訓練は、3園で連携して研究・研修をして防災教育に取り組み、手作り紙芝居を活用したり年に数回の訓練を行っている。 ・保育室の定期的な換気・遊戯室の二酸化炭素値計測器の設置・手洗いの励行・ペーパータオルの使用・玩具や室内の消毒など、感染症対策として実施してきたことは、今年度も継続している。保護者の送迎時の入室制限については、週に1回ロッカー内を確認してもらうなど見直しを行った。 ・感染症対策で中止していた4・5歳児の歯みがきを再開することができた。 ・保護者が参加する行事では、参加人数の制限や内容も見直すなど感染症対策の取り方を含め検討しながら実施した。 ・年長児も横になっての休息を取ることで、生活リズムが乱れることなく健康的に過ごすことができた。 ・不審者対応訓練は保育中に行うことで、子どもたちも訓練に参加が出来、全職員で訓練することができて、マニュアルの確認が出来た。
	課題 点	★散歩ルートの見直しが出来なかった箇所もあるので、引き続き安全面を確認したうえで、園外保育の活動を一年を通して取り入れていく。 ★0・1・2歳児クラスは園外活動（散歩など）がほぼ出来なかったため、次年度の課題としていく。 ★不審者対応訓練は、子どもたちも訓練していることがわかるような声掛けをしていく。職員間で訓練後の振り返りをする。 ★園庭の遊具の固定の雲梯での怪我が多いので、使い方や約束の見直しを行う。

食 育	評価 すべき 点	・様々な野菜（サツマイモ・夏野菜等）を栽培したり、米作りを体験して収穫の喜びを味わい、また給食の食材としても利用することで、食に対する興味や関心を育てている。 ・5歳児はクッキングをして食材に触れたり、炊飯活動を継続することで、食育に取り組んでいる。 ・お誕生会のメニューは誕生月の5歳児のリクエストを取り入れたり、いろいろな行事において行事食を提供することで、食の文化やその行事に関心が持てるようにしている。 ○ひらがな・カタカナで書いた献立表を作成し、子どもが自分で献立名がわかるようにしている。 ・3歳児クラスから食育ボードを使い、食物に対する関心を育てている。 ・こども一人一人の嗜好や量を尊重した食事の提供を行っている。 また、残食調査を毎日行い、クラス全体の必要量や子どもが食べやすい形態を検討している。 ・テーブルの上に設置していたパーテーションは外し、友だちと楽しんで食事ができるようになった。 ・家庭への食育発信としてプリント配布をしたり、食育体験活動（芋作り、米作り）に保護者も参加協力をしている。 ○『おにぎり』をテーマとした食育研究を行う中で、親子での会話が増えたり炊飯活動への意識が高まった。家庭の食生活もおにぎりを通して見えるものがあつた。 ○乳児の食事の援助の中で、必要に応じて職員がマスクを外して声掛けを行うようにした。
	課題 点	★SDGsを意識した取り組みを具体的に子どもたちに発信していく。 紙タオルの使い方の見直し、炊飯活動時や食事の食べる姿勢などを意識することで、こぼしを減らし大切に食べる気持ちを育ていけるようにする。 ★年長児や各クラスのお当番活動で、更にお手伝いができることを検討し増やしていく。 ★研究発表終了後も『おにぎりの日』を継続し、親子で食について考えたり作ったりできる機会を設けていく。

		・個別支援が必要な子どもについては、様々な機関と連携をとっている。 ・療育センターほうあんなぎさからの巡回療育指導の助言を参考に、発達障害に対する知識を深め保育に取り入れている。
--	--	--

発達支援・地域支援・人権	評価すべき点	・人権擁護のためのチェックを全職員が定期的に行い、保育の見直しをしたり検討を重ねている。 ・要保護家庭の園児に対しては、行政の担当者と情報を共有しながら丁寧な見守りや相談に対応している。 ・子ども一人一人の名前を大切に、呼び捨てやあだ名では呼ばないことを職員に周知している。 ・外国の児童を受け入れ、児童、保護者ともに丁寧に対応している。 ・一人一人の個性を認め、子どもが自分を表現でき存在を認められる事を大切にし、安心・安全に生活できるようにしている。 ○不適切保育について全職員が研修を受け、自分の保育・クラスの保育の見直しを行い防止に努めている。 ○一時預かりのお子さんとも交流する機会が多く持てた。
	課題点	★発達支援に関しては、担任は理解していても他の職員間に周知されない部分があるので、一人一人に応じた適切な援助ができるように職員間での情報共有が課題である。 ★虐待や保育における人権について職員間で共通理解をしていくために、研修を実施し周知していく。また、疑問に感じたことなどを話し合える環境・雰囲気づくりにも努めていく。 ★子どもに対する言葉遣いや態度について、引き続き各自が保育を見直し職員全体のスキルをあげていく事は継続していかなければならない課題である。 ★習慣の違いや宗教上の違いなどにも継続して、丁寧に対応をしていく。

子育て支援	評価すべき点	・子どものバースデーの前後に行う保育参加で個人面談を全員と行い保護者一人一人に細やかに対応をしている。 ・保護者連絡アプリを使用し、欠席や遅刻などの連絡がスムーズに行えている。また、保育園からの緊急連絡にも活用し、情報がスムーズに伝わるようにしている。 ・連絡アプリを利用し、毎月の園だよりや献立を配信することで、保護者が行事などをすぐに確認できるようにした。また、紙の使用の削減や保育士の業務負担が軽減された。 ・個人面談をほとんどの方とすることができ、園の様子や家庭での様子をお互いに知ることが出来た。
	課題点	★保育参加へ参加率は高かったが、参加する時期が年度末に集中していたので、早めに参加してもらえるよう誕生日が近くなってきた方から声をかけていく。 ★保護者に園での様子やお子さんの気になるところを伝えているが、スムーズに受け入れられないケースの対応について、職員間で更に検討していく機会や他の相談機関を利用していく。